

令和5年度

教科書調査研究報告書

小学校

英語

富士地区教科用図書採択連絡協議会

富士地区教科書研究委員会

I 調査研究対象教科書

発行者	書名	学年
2 東京書籍	NEW HORIZON Elementary	5～6年
9 開隆堂	Junior Sunshine	5～6年
15 三省堂	CROWN Jr.	5～6年
17 教育出版	ONE WORLD Smiles	5～6年
38 光村図書	Here We Go!	5～6年
61 啓林館	Blue Sky elementary	5～6年

II 調査研究の観点

1 内容

- (1) 「英語を用いて何ができるようになるのか」という視点で、4技能5領域の目標を踏まえた教材として、どのように工夫されているか。
- (2) 言語や文化、国際理解、教科等横断的な内容に関する題材が、どのように工夫されているか。
- (3) 言語材料を実際のコミュニケーションにおいて活用するために、どのように工夫されているか。

2 組織・配列・分量

- (1) 系統的・発展的に学習を進めるために、どのように工夫されているか。
- (2) 外国語に対する興味・関心を高め、基礎的・基本的な内容の定着を図るために、どのように工夫されているか。

3 児童の発達段階への配慮

- (1) 児童の発達段階や習熟の程度に応じた題材やその扱いが、どのように工夫されているか。
- (2) 児童の生活体験や興味・関心に応じるために、どのような配慮や工夫がされているか。

別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略 称		
2 東書	New Horizon Elementary	<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞くことや」「話すこと」だけでなく、「Sounds and Letters」によって「読むこと」や「書くこと」も継続的に学習できるため、4技能5領域のバランスのよい育成につながると思われる。 ・「Let's listen」「Let's watch」などのリスニングコンテンツには、聞き取る視点が示されており、児童にとって取り組みやすくなっている。 ・6年の pp. 2-3 を参考にアルファベットや英文の書き方のきまりを身に付けることができる。教師にとっても、書く活動の指導がしやすくなる。 ・「理科」「社会」「家庭科」「道徳」など他教科と関連させて学習できる単元が豊富にある。特に5年「Check Your Steps2」では、既習の表現を活用して自分が暮らす地域のよさを伝え合う構成となっており、思考ツールを用いて自分の考えを整理し、発信する力を育むことができる。 ・二次元コードを読み取ると、スムーズにデジタルコンテンツを視聴でき、家庭学習や個別の学習において活用できる。特に「Digital Map」には、日本だけでなく世界の国名や国旗、有名な場所がまとめられており、地域のよさを伝える活動に有効だと考える。 ・6年 Unit 6 では、SDGs について学ぶストーリーが展開され、映像資料を視聴して生き物や地球のためにできることを考えるきっかけを作ることができる。 <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年で「自分→地域→日本」、6年で「世界→地球→未来」をテーマに視野を広げながら学びを深めることができる。 ・構成は、単元の内容に慣れ親しむ「Starting Out (2時間)」→学習内容の定着を図る「Your Turn (2時間)」→目標となる実践「Enjoy Communication (2時間)」→視野を広げる「Over the Horizon (2時間)」という流れでどの単元も統一されている。 ・各単元ごとに「Our Goal」が示され、目標となる活動の映像を見ることで見通しをもつことができる。(導入) →目標に迫るため「Let's listen」「Let's watch」といった聞く活動を中心に語彙や表現に慣れ親しんでいく。(展開) →「Step1」「Step2」の流れに沿

	<p>って自分が伝えたい内容を整理し、さらに広げてコミュニケーション活動へとつなげることができる。(実践)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Over the Horizon」では、その単元での学習内容をもとに児童の視点を世界へと広げ、異文化理解や多文化共生意識を育むことができる。 <hr/> <p><児童の発達段階への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元末の「Sounds and Letters」において、文字の「名前」→「音」→「文」の順に学習することで児童は無理なく慣れ親しむことができる。また、5年から6年へと段階的に書く分量・内容が引き上げられている。 ・写真は鮮明で見やすく、イラストは落ち着いた色合いのため、集中して取り組むことができる。 ・気付いたことや学習したことを教科書にそのまま書き込めるスペースが確保されている。児童が主体的に取り組む様子や思考力を働かせている姿の見取りにつながる。 ・別冊の『My Picture Dictionary』には、環境問題に関する単語など単元に合った語彙や、会話を広げる表現、そして自分だけのオリジナル絵辞書を作成できる欄が設けられている。また、デジタル版には紙面以上の単語が掲載されており、児童の作文に役立つと考えられる。 <hr/> <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的、場面、状況が明示された魅力的な言語活動が設定されており、3観点に沿った具体的な目標を児童と教師が共有しながら4技能5領域の力を育むことができる。 ・5年から6年へと段階的に書く活動が設定されており、中学校へと表現の幅を広げながら学びを深めることができる。 ・豊富なデジタル資料によって、英語表現の慣れ親しみだけでなく、他国の文化に対する理解や郷土愛を育むことができる。
--	--

別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略 称		
9 開隆堂	Junior Sunshine	<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年 p. 15 にあるように単元の初めに、「GOAL」と学習の流れが示されているので、学習の見通しをもつことができる。また、見開きの左上には学習のめあてが示されているため、目指す姿が明確になり、何を学習していくのか児童と教師で共有ができる。 ・ 5年 p. 30, 40 などの「Let' s Listen」では、ただ聞いて答えるだけではなく、理由を書くなど、思考力を高めながら学習することができる。 ・ 5年 p. 44, 80 などの「Let' s Check」をペーパーテストとして、p. 47, 83 の「Interview」をパフォーマンステストとして活用し、評価できる。 ・ 5, 6年 p. 128 に「CAN-DO チェック」があり、「何ができるようになるか」見通しをもったり、「何ができたか」振り返ったりできるようになっている。 ・ 活動内容では、「Let' s Listen」が4つ、「Let' s Try」が4つ、「Activity」が3つなどと活動が豊富で、教科書を活用するだけで、5領域の資質・能力を高めることができる。 ・ 単元の最後に5年 p. 59 にあるような「Story Time」があり、既習事項を使った表現で「読む」力を養うことができる。また、6年はSDGsとの関わりも書かれている。 ・ 多くの活動に「発(知)」「聞(思)(態)」「や(知)(思)」などの観点が表示されていて、教師の評価がしやすいように工夫されている。 ・ ほとんどの活動にデジタルコンテンツがあり、活動の内容がデジタルコンテンツでも分かるようになっている。また、家庭学習としても活用できる。 <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5年 p. 58, 84 などにある「Around the World」「Our World」で、世界の様々な国の文化に触れることができ、児童の外国語に対する興味・関心が高まる。 ・ 5年 p. 53 など「Let' s Listen and Read」→「Let' s Write」で書く指導の流れがあり、分かりやすい。音声から文字への学習がスムーズにつながる構成になっているので、児童も書く学習に抵抗

	<p>なく取り組めると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年 p. 7で紹介されているキャラクター（英語のきまり）（考え・気持ち）（英語の文字）が p. 36, 41, 112 など気を付けることなどを吹き出しで言っているので、基本的な技能の定着を図ることができる。 ・「聞く」活動から始まり、「話す」「書く」「読む」の内容が段階を追って、学習できる流れになっている。 ・別添『Word Book』では、アルファベット順に単語が並んでいるため、探したい単語が見付けやすい。6年 p. 14 の動詞の単語数が多く、英文を書く際に活用しやすい。 <p><児童の発達段階への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文の文字が太く見やすく配慮されている。 ・5年 p. 22 などの「Letter Box」や5, 6年 p. 112 「Sounds and Letters」、6年 p. 22 などの「Sounds Box」などで段階を追って、文字の学習ができる。筆順などが丁寧に書いてあるので、配慮が必要な児童も取り組みやすくなっている。 ・言い慣れるための活動が「Let' s Play」で多く取り入れられ、児童が楽しみながら覚える工夫がされている。 ・『Word Book』では、索引が後ろにあるため、児童が書きたい単語を見付けやすくなっている。また、単語が4線に書かれているので書き写しやすい工夫もされている。 ・1つの二次元コードを読み取れば同じ Lesson のデジタルコンテンツが表示され、動画などが見られるようになっているので、スムーズに学習に取り組むことができる。音声の速度を変えることができるので、児童の理解度に合わせることができる。 ・『Word Book』では、項目ごとに二次元コードがついているため、児童が音声で聞きたいときにすぐに聞くことができる。 <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴール、学習の流れが明確になっている。CAN-DO チェックも活用すればさらに、学習の定着を図ることができると思われる。 ・思考力を高めるための活動が多く取り入れられている。活動内容が豊富なため、教科書をワークとして活用したり、ペーパーテストとしても使ったりする。きる。 ・「Letter Box」「Sounds Box」「Sounds and Letters」で文字の指導が充実していて、段階を追って学習ができるので、児童が抵抗なく取り組める。
--	--

別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略 称		
15 三省堂	CROWN Jr.	<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの大きなUnitで構成されており、それぞれのUnitの終末に言語活動が設定されている。それに向けて「HOP→STEP→JUMP」で段階的に学びを深めることができるようになっており、それぞれの段階での「Goal」も示されているため、児童が見通しをもって取り組むことができる。 ・「Let's Watch」や「Let's Listen」では、教科書に直接書き込むことができるようになっていて、ワークのように使うこともできる。 ・扉絵には児童にとって身近な日常生活が設定され、その絵の中に単語や表現が書かれているため、学習に役立てることができる。 ・別添の『My Dictionary』の「教室で使う英語」には多くの表現が状況別に紹介されているため、普段の授業に生かすことができる。 ・プログラミング（5年 p.106）や社会科（5年 p.92）など、他教科と関連した内容が扱われている。 ・ローマ字の書き方を扱っているため、児童が3年国語科で学習した訓令式との違いが分かり、自分や友達の名前を正しく書くことができる。（5年 p.23） <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのPartも「Let's Watch」「Let's Listen」「Let's Speak」「Let's Play」「Let's Talk」「Let's Read and Write」の順で展開されている。インプットからアウトプットまでどの領域も満遍なくスモールステップで学習できる流れになっている。このようにパターン化されていることによって、児童が学習の流れをつかみ、学習に集中できるようになっている。 ・JUMP（言語活動）のページの「こんなことに気をつけよう」では発表のポイントが紹介されている。5年のUnit1(p.35)では相手意識をもつこと、Unit2(p.75)では話す順序を工夫すること、Unit3(p.105)では資料の工夫をすることのように、徐々に発表が上達できるようになっている。

	<p><児童の発達段階への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的にすっきりとしたレイアウトで、色彩もやさしい。 ・それぞれの Unit で設定されている言語活動に向かって段階的に学習に取り組めるようになっている。 ・「Hello, World!」では、日本や世界のことが写真付きで紹介されている。「世界のまつり（6年 p. 20）」や「世界のいろいろな仕事（6年 p. 92）」では、一般的によく知られているものだけでなく、あまり知られていない特徴的なものも掲載されているため、児童が異文化について興味・関心をもてる内容になっている。 ・「Story Time」にはオリジナルストーリー「ケンの冒険」が掲載されている。内容に関する問いもあり、ただ読むだけにとどまらないようになっている。また、「世界のおはなし」では、「北風と太陽」「ガリバー旅行記」などのなじみのある世界の物語が掲載されている。すでに物語を知っている児童が多く、興味をもって読んだり聞いたりできる。どちらも二次元コードからデジタル教材にアクセスし、絵や文をタップすることで音声を聞くことができるため、読むことに苦手意識がある児童も音声をたよりに内容を確かめることができる。（5年 p. 78 や 6年 p. 38 など） ・『My Dictionary』に掲載されている語彙が豊富である。カテゴリーごとに整理されていたり、索引があったりするため、児童が調べたい語句を見付けやすい。4線以上に表記されているため、書く活動で活用できる。児童にとってイメージしにくいであろう対義語も、イラストがあることで分かりやすい。 ・デジタル教材が充実している。「みんなで歌おう」では、歌に合わせて歌詞に色が付くため、児童がどこを見たらよいか分かりやすい。アルファベットの筆順の動画は、家庭学習で活用できる。単語ゲームでは、楽しみながら単語の学習をすることができる。また、「もくじ」から他の活動や他の Unit のデジタル教材を開くことができるため、二次元コードを何度も読み取る必要がない。 <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの大きな Unit で構成されており、単元の終末の言語活動に向けて段階的に学びを深めるようになっている。学習の流れがパターン化されているため、児童が学習に集中できるようになっている。 ・コミュニケーションのポイントや、読み物教材、デジタル教材が充実している。 ・『My Dictionary』に掲載されている語彙が豊富で、児童が知りたい語句を見付けることができる。
--	---

別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略称		
17 教出	ONE WORLD Smiles	<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元の始めに「Goal」が示されており、単元末に振り返りを書くところがあるため、児童が見通しをもって取り組める。振り返りの項目が3観点に沿っており、目指す姿を児童と教師で共有することができる。 ・単元末に「Final Activity」が設定されている。単なるスピーチではなく、「クラスみんなのできることを木をつくろう(5年 p. 58)」「みんなの将来の夢を書いた風船を集めて夢の気球をつくろう(6年 p. 84)」のように、児童が「おもしろそう。」「やってみたい。」と思える活動になっている。協働的な活動を取り入れているため、自然なコミュニケーションにつながる。発表例の動画があり、児童がイメージをもって取り組める。それに合わせたワークシートが巻末にあり、裏面には振り返りを記入するところもあるため、学習に活用することができる。 ・他教科と関連した内容が充実している。国語科の物語文「おてがみ」(6年 p. 66)、社会科の地図記号(5年 p. 94 や6年 p. 23)、道徳科の教材(5年 p. 86 など)のように、他教科での学習を生かして楽しく学べるものが扱われている。 ・6年では、1年間学習した内容を記入していく「My Book」のページがあり、これまでの学習のまとめになる。 ・「Let's Look at the World」では、SDGsが意識されており、世界の学校やアメリカ手話について扱っている。(5年 p. 41, 87 や6年 p. 41, 98) <p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの単元も「Let's Watch」「Let's Listen」といったインプットの活動から、「Activity」「Final Activity」といったアウトプットの活動に展開されており、児童が無理なく取り組めるようになっている。 ・各単元末に「Sound and Letters」が配置されている。5年はアルファベットの練習から始まり、「pとb」「rとl」などの発音や文字指導を扱っている。6年では母音と「thとs」「thとz」を扱っている。児童が段階的に文字や音に慣れ親しめるようになっている。 ・教科書の厚さ、大きさ、分量が適当である。

	<p><児童の発達段階への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介から始まり、地域や国内のこと、世界のここのように、児童の視点が徐々に広がっていくような構成になっている。 ・「Final Activity」の例が紙面に複数あるため、児童がイメージをもったり参考にしたりしやすい。(6年 p.62, 84 など) ・メモリーゲーム、ゲッシングゲーム、ボンゴゲーム、点つなぎなどのゲームが豊富で、3・4年の外国語活動とのつながりがゆるやかである。また、外国語に苦手意識をもっている児童も楽しんで取り組める。(5年 p. 19, 27, 28 や6年 p. 34, 82 など) ・紙面の会話の例では、文の一部が青色でマークされており、そこに自分の言いたいことをあてはめれば言えるようになっている。また、吹き出しに番号が振ってあるため、会話の順序も分かる。 ・5年に国内の名所・名物マップ (p. 66)、6年に世界の名所・名物マップ (p. 56) が付いているため、児童がいろいろな県や国に目を向けることができる。 ・リスニング教材では、キーワードのみを聞いて回答する児童が多く見られるが、「Let's Listen」では「ほかにわかったこと」を書き込む欄もあるため、なるべく多くのことを聞き取ろうと主体的に取り組む児童が増えると予想される。(6年 p. 33 など) ・5年に「活動用シール」が付いているため、絵を描いたりイラストを切ったりする必要がなく、コミュニケーション活動に十分に時間を使うことができる。 ・巻末の「My Word Bank」には、カテゴリ一別に単語や表現が掲載されており、4線の上に書かれているため、書く活動で活用することができる。また、アルファベット順に並んでいるため、辞典の活用につながる。 ・教科書の登場人物や単元の扉絵に、様々な国籍の人や車椅子や白杖を利用している人などが描かれており、多様性への配慮がある。(5年 p. 52 など) <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元末に設定されている「Final Activity」が、単なるスピーチではなく、児童にとって魅力的なものとなっている。また、例が紙面に複数あるため、児童がイメージをもったり参考にしたりしやすい。 ・単元の始めに「Goal」が示されており、単元末に振り返りを書くところがあるため、児童が見通しをもって取り組める。振り返りの項目が3観点に沿っており、目指す姿を児童と共有することができる。 ・インプットの活動からアウトプットの活動に展開されており、児童が無理なく取り組めるようになっている。
--	--

別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略 称		
38 光 村	Here We Go!	<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の初めに「Goal」と学習の流れ「Hop→Step→Jump」が示されていて、その単元で何を学習するかが明確になっている。教師は、学習内容を見ることで、振り返りを作成しやすいようになっている。 ・5年 p. 29, 39 や6年 p. 27, 35 など、「Let's try.」のページに「Response」があり、コミュニケーションをさらに深める手立てとなると考える。また、5, 6年どちらも巻末『Picture Dictionary』の最後のページには、「Response」がまとまって載っているので活用しやすい。 ・英語に十分慣れ親しむことができるように、コミュニケーションを図るための活動が豊富にある。 ・6年 p. 53, 63 など他教科との関連があり、他教科で学んだことを生かしながら楽しく学べるようになっている。5年 p. 66 の国語科との関連では、日本語と英語の違いを学習しながら、言葉への興味・関心を高められると考える。 ・6年 p. 38, 58 など単元の終末に近づいてきた段階で「Let's read.」が設けられており、聞き慣れた、話し慣れた表現を読むことで、「読む」力を養えるようになっている。 ・6年 p. 58 にあるようにSDGs との関連や5年 p. 46 にあるように異文化理解ができ、児童の興味・関心が高められる。 ・単元の終わりに6年 p. 81 のように領域ごとの振り返りができる。また、6年 p. 111 巻末のシートに単元ごとの簡単な学びが記録でき、1年間の学習を振り返ったり、学びの蓄積を実感したりすることに役立つ。 ・5年 p. 79, 89、6年 p. 61 などでICTの活用事例があり、外国語科でもICTを使って学習ができるようになっている。 ・「Story」「Let's listen and point.」「Let's watch.」「Let's listen.」「Let's try.」と、「聞く」「話す」活動を重視した内容になっている。

<組織、配列、分量>

- ・単元の初めにある「Hop→Step→Jump」の内容が、聞く→話す→書く→読むとなっていて、段階的に4技能5領域が学べるように工夫されている。
- ・二次元コードを読み込むとその単元内にある「Story」「Let's chant」「Let's watch」などを見ることができ、操作しやすい。
- ・5年 p. 22, 46, 47, 64 では、児童があまり知らない国が出てきたり、同じ国の紹介にならないように様々な国を出す工夫がされていたりするので、児童が世界に対する興味・関心を高めることができるようになる。
- ・6年『Picture Dictionary』 p. 6 で、現在形と過去形が隣合わせに載っているため、単語の意味理解がしやすくなっている。
- ・全体的に教科書の内容がすっきりとしていて見やすく、どの単元でも配置が似ている。また学習内容が適量であるため、一つ一つの活動に充てられる時間が確保できるなど、児童が意欲的に活動するために配慮されている。
- ・5年 p. 104, 6年 p. 99 など「書く」活動において、児童が基礎・基本を身に付けやすいような工夫がされている。イラストもあるため、どの児童でも分かりやすいように配慮されている。

<児童の発達段階への配慮>

- ・二次元コード内にある「Let's chant.」では、音声で流れたところの字幕に色が着くので、児童はどこを歌っているのか目で追いやす。
- ・文末表現が「～しよう。」「～かな。」など優しい言葉遣いで、児童が前向きに学習に取り組める。
- ・『Picture Dictionary』に載っている単語がすべて4線に書かれているので、「書く」学習の時に、4線を意識しやすいように工夫されている。また、5, 6年 p. 17 には日本語訳があったり、6年 p. 8 の頻度では、イラストで分かりやすくなっていたり、6年 p. 5 では季節の行事以外にも関連する表現が載っていたりするので、児童が進んで学習に取り組むやすくなっている。例文が多いのも活用がしやすい点である。
- ・文字指導の「Alphabet Time」5年 p. 24, 34, 44, 105～、6年 p. 100～では、つまづきが少なくように段階を追って慣れ親しめるようになっている。内容が適量で、楽しみながら活動できる。また、二次元コードで読み取ったデジタルコンテンツで音声がかかるため、家庭学習としても活用ができる。
- ・単元の最後にどんな活動をするのか5年 p. 65 や6年 p. 91 などの吹き出しで例示するだけでなく、二次元コードを読み取るとデジタルコンテンツの動画もあるので、児童にとって活動内容が明確で分かりやすくなっている。

	<p><総評></p> <ul style="list-style-type: none">・単元の初めに「Goal」「Hop→Step→Jump」があり、その単元で何を学習するかが明確になっている。段階的に学習することで、4技能5領域を学べるようになっている。・『Picture Dictionary』では、現在形と過去形が隣合わせになっていたり、児童がイメージをもてるようにイラストが配置されていたりと、視覚的支援があり、どの児童でも活用しやすい。・世界に関する情報が多く、児童が異文化に興味をもったり、世界の様子を知ったりでき、世界への見方や考え方を広げることができる。
--	--

別紙様式 2

種目名	英語
-----	----

発行者 番号	教科書名	調査・研究結果 (①内容、②組織、配列、分量 ③児童の発達段階への配慮)
略 称		
61 啓林館	Blue Sky elementary	<p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の構成は大きく3つに分かれており、3つのUnitを学習した後、「REVIEW」に取り組む。それぞれのUnitの構成がpp. 2-3に分かりやすく掲載されており、児童も教師も見通しをもって学習できる。 ・5年 pp. 6-7、6年 pp. 8-9に「コミュニケーションで大切なこと」が掲載されている。児童は同ページに記載されている二次元コードを読み取って音声で確認したり、児童同士のやり取りからよりよいコミュニケーションを目指したりすることができる。 ・各単元の紙面には、チャンツの基本となる表現が明示されている。児童は発音する際に気を付ける部分や強調する箇所の印を頼りにリズムよく言い慣れることができると思われる。 ・ゴールの活動である「Activity」のページには、二次元コードで「Hints」が載っており、グッドモデルをいつでも視聴できるようになっている。 ・「Did you know?」では、児童が興味を引くような異文化の話題を取り上げることで、視野を広げて国際理解・異文化理解を深められる内容となっている。また、「Did you know プラス」では、SDGsの取り組みがクイズ形式で紹介されており、児童は他教科での学びを生かしながら協働的に学ぶことができる。 ・pp. 130-131には「Can-Do List」があるため、児童は目標をもって学習したり、4技能5領域について自分の学びを振り返ったりすることができる。教師は、評価の参考にすることができる。 ・巻末には「会話を楽しむフレーズ集」が掲載されており、コミュニケーションをより円滑にする表現を学ぶことができる。また、このフレーズ集は切り離すことができるため、やり取りの活動において児童が持ち歩くこともできる。

	<p><組織、配列、分量></p> <ul style="list-style-type: none"> ・扉絵には、様々なイラストや写真が掲載されており、単語の確認をしたり、Teacher Talk やウォーミングアップの題材にしたりすることができる。また、単元全体のめあて「GOAL」と各ステップのめあてが明示され、教師と児童が見通しをもって取り組めるようになっている。 ・「Let's Read and Write」では、文字と音との関係を繰り返し丁寧に学習していくことができ、「読むこと」と「書くこと」の力を養うことができる。 ・pp. 108-128 の『Word List』には単元で活用できる語彙が豊富に掲載されている。また、smartphone や free Wi-Fi など現代の児童の興味・関心に合わせた単語が選ばれているように感じる。 <hr/> <p><児童の発達段階への配慮></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、「Activity」において「Watch and Do」を参考にしながら教科書に直接書き込むことができる。また、5年 p. 11 では、初めて名前を書く活動が組み込まれているが、隣接するページにローマ字表があるため、児童は表を見ながら抵抗なく書くことができるだろう。 ・二次元コードを読み取ると、教科書の各活動の音声、アルファベットや語句をゲーム感覚で学べるコンテンツ、世界の文化や生活などについて学習できる映像を視聴できる。音声速度や字幕の有無を調整できるため、すべての児童が自分に合ったレベルで安心して学習に取り組むことができる。 ・イラストや写真などにおいて、様々な人種の人々が登場し、互いを尊重して垣根なく接する様子が伝わる。その国や文化を理解・尊重する心が育まれる。 <hr/> <p><総評></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動が適量で、全体的にシンプルなデザインになっているので、学習内容を把握しやすい。 ・実態に合わせて難易度を調節できるデジタルコンテンツを活用して、家庭学習を充実させることができる。 ・児童が親しみを持ちやすいイラストと写真が掲載されている。 ・教師にとっても児童にとっても、学習評価の助けとなる「Can-Do List」が巻末にあるため、目標と評価を一体化した指導ができる。
--	---